

令和3年度 国際黒曜石会議開催に向けた地域連携プロジェクト 実績報告書



えんがるの宝を守り、未来につなげるプロジェクト実行委員会
(遠軽町埋蔵文化財センター、白滝ジオパーク推進協議会、NPO 法人えんがるジオ倶楽部、
NPO 法人丸瀬布昆虫同好会、遠軽町ウチダザリガニ防除ボランティアグループ ジオ・ザリ・クラブ)

■現状の分析

「遠軽町埋蔵文化財センター」は、重要文化財指定資料を含む国指定史跡「白滝遺跡群」出土品を中心とする考古資料の展示・収蔵施設である。日本列島最大の黒曜石産地を背景に築かれた、後期旧石器時代の石器製作址から出土したこれらの資料群は、変動する気候に適応を果たしてきた人類の技術や、移動・交流の証として世界的な評価を受けている。近年、世界各国の地質学・考古学をはじめとする研究者によって、黒曜石をテーマとする国際会議（International Obsidian Conference）が開催されている。当施設が位置する北海道遠軽町では、この国際会議の誘致活動を行った結果、令和5（2023）年に、日本で初めて開催することが決定した。

会議開催決定を契機として、誰もが日本列島最大の黒曜石産地と重要文化財資料の情報にアクセスできる環境を整備するため、文化芸術振興費補助金（令和2年度地域と共働した博物館創造活動支援事業）の採択を受け、事業を実施した。本事業では、①黒曜石露頭と重要文化財展示室の3Dモデリングデータの作成及び外国語によるインターネット上での情報発信と、②地域全体の機運醸成のため、ワークショップやシンポジウムなどの周知啓蒙イベントの開催を計画した。しなしながら、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、②については計画変更を余儀なくされた。さらに、令和3（2021）年4月に、第3回国際会議の開催地として決定していたカリフォルニア大学バークレー校では、新型コロナウイルスの世界的な流行を受け、オンライン会議に変更がなされたところである。

当実行委員会では、国際会議の受け入れに当たり、国内の大学教授や専門家からなる学術運営部会を組織し、開催方法について検討を行ってきた。これらの検討会議は当初、対面での会議を予定していたが、早々にオンライン会議に移行したことで滞りなく実施することができた。一方で、地域内の利害関係者を対象としたワークショップや検討会議は、オンライン会議形式で実施することができず、地域間のヒト・モノ・コトのデジタル格差が明瞭となった。

■事業の目的

本事業では、2023年の国際黒曜石会議開催に向け、地域の受入体制を整備していくことを目的とするが、新型コロナウイルスを考慮し、多人数が集まる会議や集客イベントの開催は困難であると判断した。また、国際会議自体のバーチャル開催も念頭に置きながら、いわゆるコロナ禍でも地域経済に寄与できるよう、デジタル対応を含めた体制整備を図っていく必要がある。

現状では当施設は過去の事業成果により、地域内でもデジタル対応が進んでおり、特にICTを活用した文化財の情報発信環境が整備されている。この環境を事業の柱とし、人材の育成と地域の観光や産業などの他分野との連携を進めていくことが、地域の課題解決につながるものと考えられる。この状況を後押しするように、「GIGAスクール構想」が推進され、学校教育現場でのデジタル格差解消に兆しが見えた。

このため、学校教育においてICTを活用した文化財の情報発信を通して、地域の人材育成を図る。国連SDGsの目標達成やESD教育の推進と絡めながら、新しい時代に活躍できる人材の育成を目指す。さらに、インターネット上での文化財や展示室の3Dモデリングデータの発信は、新しい生活様式下での鑑賞方法として提供可能なサービスといえる。地域の観光や産業など他分野と連携し、黒曜石や文化財を地域ブランド化の要とするなど、地域経済へ寄与できる仕組みを模索する。これら事業の達成のためには、当施設が中核館の役割を果たすことが必須である。

■事業の概要

上記の目的を達成するために、本事業は以下の事業によって構成する。

【事業① ICTを活用した文化財の情報発信による人材育成】：過去の事業成果である、黒曜石溶岩露頭及び重要文化財展示室の3Dモデリングデータをデジタル学習コンテンツとして活用し、地域の人材育成を図る。さらに、国連SDGsの目標達成やESD教育の理解を深めるため、2030SDGs公認ファシリテーターの資格を有する地域人材と連携し、学校教育の現場でアクティブ・ラーニング型の授業を実施する。さらに、行政担当者や教員が異動しても継続できるよう、教育プログラムとして開発を行う。本事業は、教育旅行の誘致資料や教員のサポートにもつながるものとする。

【事業② 他分野と連携した文化財を核とする地域ブランド化の推進】：文化財や展示室の3Dモデリングデータの発信は、新しい生活様式下での鑑賞方法としてすでに確立されている。また、関係団体と連携した観光イベントもバーチャルイベントとして開催が可能だった（令和2年度）。一方で、ポストコロナを見据えると、地域の観光や産業など他分野に不利益が生じないよう、利害関係者への配慮が重要である。そのため、国際会議の舞台となるような地域資源が存在していることを、地域内の利害関係者に改めて認識してもらうためのワークショップ（オンライン会議も含む）を開催する。利害関係者との連携強化が目的であることから、黒曜石や文化財の付加価値化と地域ブランド化の可能性について検討を行う。

■組織体制

えんがるの宝を守り、未来につなげるプロジェクト実行委員会

会長 河原 英 男（遠軽町教育委員会 教育長）

副会長 佐々木 修 一（白滝ジオパーク推進協議会 会長）

副会長 矢 木 優（特定非営利活動法人えんがるジオ倶楽部 理事長）

委員 佐藤 正 美（特定非営利活動法人丸瀬布昆虫同好会 理事長）

委員 金子 恵 美（遠軽町ウチダザリガニ防除ボランティアグループ ジオ・ザリ・クラブ代表）

監事 竹内 紀久夫（特定非営利活動法人えんがるジオ倶楽部 専務理事）

監事 浅利 誠（特定非営利活動法人丸瀬布昆虫同好会 理事）

事務局

事務局長 松村 愉文（遠軽町総務部ジオパーク推進課 課長／遠軽町埋蔵文化財センター 所長）

事務局員 瀬下 直人（遠軽町埋蔵文化財センター 係長・学芸員）

事務局員 本田 晃平（遠軽町埋蔵文化財センター 主事）

事務局員 山中 大志（遠軽町総務部ジオパーク推進課 主事補）

■目標と効果の測定について

本事業の目標は、①ICTを活用することで地域の文化財の理解や、国際的な価値を有することの認識を深め、②現代の人の交流を促すことにより、地域経済を活性化していくための体制を整備することである。しかしながら、ウィズコロナ、ポストコロナを見据えた新しい時代への対応も急務であることから、デジタルネイティブ世代の人材育成や、他分野との連携方法にも配慮しながら本事業を進めていく。

各事業では、児童生徒及び教員と、利害関係者に対しアンケート調査を行う。このようなICTを積極的に活用した事業は、地域内では初の試みであることから、初年度である本年は指標の基準となるデータの取得に努め、事業を継続することで効果の測定を行う。得られたデータは集約、分析した後、報告書として作成し広く活用可能な形で公開する。

■事業スケジュール

	実施日	開催場所	内 容
①	①実行委員会及び関係者会議 令和3年5月10日(月) 令和3年5月11日(火) 令和3年6月17日(木)	書面会議 リモート開催 リモート会議	実行委員会総会 事業趣旨説明 観光イベント打合せ 観光イベント打合せ
②	②小・中・高等学校における授業 令和3年11月8日(月) 令和3年11月11日(木) 令和3年12月8日(水) 令和3年12月9日(木)	遠軽町立白滝小学校 北海道遠軽高等学校 遠軽町立南中学校 遠軽町立南中学校	ICTを活用した黒曜石学習 2030SDGs 学習 2030SDGs 学習 2030SDGs 学習
	③教育プログラムの調査・開発 令和3年10月14日(木) 令和3年11月11日(木)～ 12月20日(月) 令和4年2月14日(月)	遠軽町教育委員会 北海道遠軽高等学校 遠軽町立南中学校 遠軽町埋蔵文化財センター	GIGA スクール事業説明会 2030SDGs 学習実施に伴う アンケート調査 教育プログラム現地調査
③	④学術運営部会の開催 令和3年6月15日(火) 令和3年10月28日(木) 令和4年3月24日(木)	リモート開催 リモート開催 リモート開催	第4回学術運営部会会議 第5回学術運営部会会議 第6回学術運営部会会議
	⑤利害関係者とのワークショップ 令和3年12月17日(金) 令和4年2月16日(水) 令和4年3月16日(水)	遠軽町福祉センター 木楽館 遠軽町福祉センター	国際黒曜石会議ワークショップ 地域資源の活用に関するワークショップ 皆さんと一緒にデザインする黒曜石ジオ ツアーワークショップ
④	⑥関係団体と連携した 観光イベントの開催 令和3年7月22日(木) ～令和3年9月30日(木) 令和3年10月1日(金) ～令和3年12月31日(金) 令和3年11月13日(土)	現地周遊期間 WEB 周遊期間 丸瀬布中央公民館	「リアルでおうちでインカルシ探偵団」開催 【現地周遊】 「リアルでおうちでインカルシ探偵団」開催 【WEB 周遊】 「リアルでおうちでインカルシ探偵団」開催 【わくわく自然体験教室】

①実行委員会及び関係者会議

＜えんがるの宝を守り、未来につなげるプロジェクト実行委員会総会＞

- 実施日時 令和3年5月10日（月）【書面会議】
- 開催場所 遠軽町埋蔵文化財センター
- 出席者 事務局：松村愉文、瀬下直人、山中大志
- 内容 令和2年度事業・決算報告及び会計監査報告、令和3年度事業概要・予算案説明
新型コロナウイルスの感染者の増加に伴い、総会は書面会議にて開催し承認を受ける。昨年度に引き続き、感染症予防に配慮しながら各事業を行うこととした。

＜観光イベント打合せ＞

- 実施日時 令和3年5月11日（火）10:00～11:00
令和3年6月17日（木）10:00～11:00
- 開催場所 リモート開催
- 出席者 （一社）えんがる町観光協会：小林昌樹、保科達矢 事務局：松村愉文、山中大志
- 内容 令和3年度観光イベントの開催方法について、新型コロナウイルスの感染拡大にも対応できるよう現地周遊とWEB周遊による二通りの実施方法で開催することとした。また、現地周遊の混雑回避のため、問題の設置場所を16か所に増設することを決定する。

②小・中・高等学校における授業の実施

文化財のデジタルコンテンツを活用した学習と現代的課題であるSDGsやESD教育による人材育成を図るために町内の小・中・高等学校にて授業を実施する。なお、計画では遠軽町内14校で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大による学校閉鎖の影響もあり3校の実施に止まった。

- 実施日時 令和3年11月8日（月）
- 開催場所 遠軽町立白滝小学校（児童6名）
- 講師 横山光（北翔大学教授）、東駿哉（北翔大学学生）
- 内容 ICTを活用した黒曜石学習（映像・実験）



- 実施日時 令和3年11月11日（木）
- 開催場所 北海道遠軽高等学校（生徒37名）
- 講師 熊谷誠（2023SDGs公認ファシリテーター）
- 内容 2030SDGs学習（カードゲーム）



- 実施日時 令和3年12月8日（水）・9日（木）
- 開催場所 遠軽町立南中学校（生徒61名）
- 講師 熊谷誠（2023SDGs公認ファシリテーター）
- 内容 2030SDGs学習（カードゲーム）



③教育プログラムの調査・開発

遠軽町埋蔵文化財での展示解説や体験学習、デジタルコンテンツを継続的に運用するため教育プログラムの調査・開発を行う。特に教育プログラム調査業務委託では、ESD 教育の視点を導入したカリキュラムの編成に主眼を置いた。

<GIGA スクール事業説明会>

- 実施日時 令和3年10月14日(木)
- 開催場所 遠軽町教育委員会
- 内 容 町内小中学校(13校)を対象とした説明会において埋蔵文化財センターのデジタルコンテンツの事例紹介とSDGsやESD教育推進に向けたプログラム紹介や意見交換を行う。

<2030SDGs 学習実施に伴うアンケート調査>

- 実施日時 令和3年11月11日(木)～12月20日(月)
- 開催場所 遠軽高等学校・南中学校
- 内 容 2030SDGs 学習実施に伴うアンケート調査

学習の成果として、目的の理解や多様な視点からの思考には一定の成果がみられた。今後はさらに行動の変化に結び付ける取り組みが必要である。

設 問	1 (思わない)	2	3 (普通)	4	5 (非常に思う)
自分と世界のつながりを感じることはできましたか	0(0%)	6(6%)	18(18%)	40(41%)	34(35%)
今後の自分の視点や行動は変化しますか	3(3%)	7(7%)	40(41%)	30(31%)	18(18%)
今日から自分ができることは見つかりましたか	4(4%)	12(12%)	43(44%)	27(28%)	12(12%)

<教育プログラム現地調査(教育プログラム調査業務委託)>

- 実施日時 令和4年2月14日(月)
- 開催場所 遠軽町埋蔵文化財センター・白滝ジオパーク交流センター
- 内 容 教育プログラム調査業務委託に関する現地調査及び打合せ
教育プログラム調査業務(令和4年3月15日完了)の成果から活用ガイドを作成し、遠軽町内及びオホーツク管内小中学校など関係機関に配布を行う



④国際黒曜石会議開催に向けた受入体制の整備

2023年に開催する国際黒曜石会議の運営組織である白滝ジオパーク推進協議会内に考古学、地球科学の研究者で組織する学術運営部会を設置した。令和3年度ではリモートによる会議を3回開催し、大会プログラム案や開催方法の検討、国外及び国内の研究機関への周知方法について協議を行う。

<学術運営部会の設置>

白滝ジオパーク推進協議会国際黒曜石会議学術運営部会委員

氏名	所属	任期	備考
小野 昭	白滝ジオパーク交流センター名誉館長	R2. 6. 1～R6. 3. 31	委員長
和田恵治	白滝ジオパーク推進協議会学識顧問	R2. 6. 1～R6. 3. 31	副委員長
池谷信之	明治大学黒曜石研究センター 特任教授	R2. 10. 1～R6. 3. 31	副委員長
熊谷 誠	株式会社ジオ・ラボ遠軽営業所	R2. 6. 1～R6. 3. 31	
佐野恭平	兵庫県立大学 助教	R2. 6. 1～R6. 3. 31	
島田和高	明治大学博物館 学芸員	R2. 6. 1～R6. 3. 31	
隅田祥光	長崎大学 准教授	R2. 6. 1～R6. 3. 31	
橋詰 潤	新潟県立歴史博物館 主任研究員	R2. 6. 1～R6. 3. 31	
山田 哲	北見市教育委員会 ところ遺跡の森所長	R2. 6. 1～R6. 3. 31	
高瀬克範	北海道大学教授	R3. 4. 1～R6. 3. 31	

※第1～3回は令和2年度に開催

- 第4回学術運営部会会議（リモート開催） 令和3年6月15日（火）14:00～15:30
- 第5回学術運営部会会議（リモート開催） 令和3年10月28日（木）15:30～17:00
- 第6回学術運営部会会議（リモート開催） 令和4年3月24日（木）17:00～18:30

⑤利害関係者とのワークショップ

国際黒曜石会議の開催を契機に他分野における文化財の活用方策を探るため、関係団体や利害関係者とワークショップを開催し幅広い意見交換を行う。特に観光分野との連携では、アドベンチャートラベルのコンテンツとしての可能性が検討される。

- 実施日時 令和3年12月17日（金）18:30～20:00
- 開催場所 遠軽町福祉センター
- 講師 熊谷誠（株）ジオ・ラボ遠軽営業所長
- 出席者 13名（遠軽商工会議所、えんがる商工会、役場商工観光課、教育委員会、NPO えんがるジオ倶楽部、NPO 丸瀬布昆虫同好会）
- 内容 国際黒曜石会議 遠軽大会 2023 開催に係るワークショップ
学術研究を基軸とした地域資源の活用と事業化について



- 実施日時 令和4年2月16日（水）15:00～17:00
- 開催場所 木楽館（えんがる町観光協会）
- 講師 杉山大輔（株）JTB 総合研究所プロジェクトパートナー・合同会社北大雪ファーム代表取締役
- 出席者 7名（役場商工観光課、地域おこし協力隊員、



遠軽町観光協会、埋蔵文化財センター)

- 内 容 アフターコロナの旅行スタイルとして注目される「アドベンチャートラベル」についての概要説明。また、文化財などの地域資源を活用したプログラム案に関するワークショップ
- 実施日時 令和4年3月16日(水) 18:00~20:00
- 開催場所 遠軽町福祉センター
- 講 師 横山光(北翔大学教授)
- 出席者 15名(一般町民)
- 内 容 「皆さんと一緒にデザインする黒曜石ジオツアー」
テーマと対象を絞り込んだツアーデザイン



⑥関係団体と連携した観光イベントの開催

<リアルでおうちでインカルシ探偵団～君が探偵となって遠軽町の謎を解き明かそう！の開催について>

- 主 催 えんがるの宝を守り、未来につなげるプロジェクト実行委員会
白滝ジオパーク推進協議会、(一社)えんがる町観光協会
- 開催期間 令和3年7月22日(木)～令和3年12月31日(金)
現地周遊:7月22日(木)～9月30日(木)
WEB周遊:10月1日(金)～12月31日(金)
- 開催形式 現地周遊:遠軽町内の対象施設に設置した5つの問題から謎解きに挑戦していく
WEB周遊:白滝ジオパークHPからリンクして5つの問題から謎解きに挑戦していく
いずれもプレゼント応募の際に北海道電子自治体共同システムを利用し、参加者にアンケート調査を実施して遠軽町の文化・観光振興の参考資料とする
- 広報周知 全国の博物館施設や道内の道の駅等の観光施設、町内の公共施設及び観光施設にポスター、チラシを掲示、配付を行う。さらに、北海道新聞、生活情報誌(DOUSHIN プラウ)の媒体にイベントに関する広告を掲載し広く周知に努めた。
- 対象施設(16施設)
 - 【地球と人の謎】埋蔵文化財センター、丸瀬布森林公園 いこいの森
木のおもちゃワールド館ちゃちゃワールド、遠軽町郷土館
 - 【花咲く丘の謎】太陽の丘えんがる公園 虹のひろばコスモス園、木楽館、瞰望岩
 - 【ホテル王の謎】生田原温泉ノースキング、瀬戸瀬温泉セトセ温泉ホテル、
丸瀬布温泉やまびこ、マウレ山荘ポッケの湯
 - 【深い森の謎】道の駅遠軽 森のオホーツク
 - 【館の謎】道の駅まるせつぷ、道の駅しらたき、JR遠軽駅、北見バス遠軽営業所
- ホームページ閲覧数と参加者数
謎解き問題サイト総アクセス数 5,477件(問題設置URLより)
Twitter 総インプレッション数 15,514件(「#遠軽町」「#インカルシ探偵団」表示回数)
推定参加者数 約595名(現地周遊73名、WEB周遊522名)
アンケート回答者数 105名(イベント参加者の17.6%)

■反省・評価

令和2年度では、コロナ禍の開催によるWEB展開により予想を超える成果を上げることができた。このため今年度の現地周遊では、コロナ禍の密集を避けイベントに参加しやすくなるために対象施設を16施設に増やすこととした。しかし、8月28日以降は、緊急事態宣言の発令による施設休館の影響で思うような集客ができなかった。

10月1日以降はWEB周遊期間に移行して事業は継続できたが、コロナ禍における開催方法に課題を残すこととなった。なお、11月13日(土)に丸瀬布・白滝地域の小学生を対象とした「わくわく自然体験教室」ではNPO丸瀬布昆虫同好会の協力により参加者を対象とした謎解きを開催し埋蔵文化財センターをはじめとする各施設の紹介を行うことができた。



イベント開催時に実施したアンケート調査でも回答者105名のうち、35名(33%)が埋蔵文化財センターや丸瀬布昆虫生態館、ちゃちゃワールドなどの博物館施設を訪れていることが確認できた。今後はさらにターゲットを絞り込んだ具体的な企画を提案することで観光施設の利用者を博物館に取り込んでいきたい。

